

国語科学習指導案

河内長野市立千代田小学校

指導者 ○○ ○○

○○ ○○

○○ ○○

1. 日時 令和8年2月10日(火) 5時間目(13:55~14:40)
2. 場所 河内長野市立千代田小学校 2年1組教室 2年2組教室 2年3組教室
3. 学年・組 第2学年1組(30名) 第2学年2組(30名) 第2学年3組(30名)
4. 単元名 だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう
5. 教材名 『ロボット』(光村図書)

6. 単元の目標

◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。【知識及び技能】(3)エ

○文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。

【思考力、判断力、表現力等】(1)カ

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【思考力、判断力、表現力等】(1)ウ

○文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

7. 指導にあたって

(1)児童について

本学年の児童は、どの教科でも前向きに学習に取り組むことができる。また、班の意見の交流をすることにも積極的である。2年生の最初の説明文の『たんぼぼのちえ』では、児童は文章の構成や順序、筆者の表現の工夫を読み取った。特に、段落ごとに問いに対する色分けをして読み取る活動を通して、文章の構成を理解した。さらに、2学期の『どうぶつ園のじゅうい』では、毎日の仕事と特別の仕事が書かれた段落を読み取り、筆者の構成の工夫を理解することができた。また、『あったらいいな こんなもの』の学習では、自分の生活に役立ちそうな便利な道具や生活が楽しくなるような道具を考え友だちと聞きあう活動を行った。『紙コップおもちゃをつくらう』では、順序を表す言葉を学び、実際に自分で作った紙コップのおもちゃの作り方の順序を表す言葉やわかりやすく説明するための言葉を使いながら、説明文を書いた。

児童は、説明文の大切な言葉や文を選び出すことができるようになってきたが、自分で考えて説明す

る文章を作ることは、まだまだ難しいと感じている児童が多い。そのため、説明文を読んで学習した文章の構成や大切な言葉を使って、自分で書いた説明文に活かせるように学習を進めたい。

(2) 教材について

本教材は、商業施設や飲食店をはじめ、家庭内でもロボットを目にする機会が増えており、児童にとって興味や関心を持ちやすい題材である。

本教材の文章構成は「初め(話題提示・問い)」「中(答え=事例の列挙)」「終わり(まとめ・読者へのメッセージ)」という3部構成の説明文である。これは、説明文的文章の典型であり、児童にとっても理解しやすい教材である。

第1段落では、ロボットについての筆者の定義を冒頭で述べ、児童にも理解しやすいように單元扉の写真のロボットを例示しながら話題提示をしている。第1段落の最後には、文章全体にかかる問いが2つあり、この問いの答えが「中」で述べられていくという構造である。

第2段落から第4段落では、3つのロボットが、どんなときに助けてくれるのかを説明している。各事例とも、初めにどんなロボットかを簡潔に述べ、次に「このロボットは、」という書きだして、問い①「どんなロボットがあるのでしょうか。」の答えと捉えることができる。それから、私たちが困る状況、つまり助けてほしい場面を具体的に述べ、最後の文で「このロボットがあれば、」の書き出しで、問い②「どんなときに、たすけてくれるでしょう。」に対応する答えを説明している。「中」の3つの事例は、同じ構成で説明されているので、児童もあまり迷わずに読み取ることができる。また、各事例の順序は、児童にとって身近で日常的なものから、非日常の場面で使われるロボットへとという順になっている。

第5段落は、「このように」で始めており、ここまでの事例のまとめであることが捉えやすい。そして、これからは今より多くのロボットと共に生きていくことになるという未来予測から、「どんなロボットがあればよいと思うか、ぜひ、考えて欲しい」と最後の一文を読書に投げかけ、筆者のメッセージが強く伝わる文章になっている。児童は筆者の問いかけに答えたいと考え、自ら思考し判断し表現する学習活動をめざすことができる文章である。

どのロボットも人々が困っているときに助けてくれるものとしている。『あったらいいな。こんなもの』を想起させながら、これから、どんなロボットがあると人を助けてくれるのかを考え、関連読書とその共有を通して、他者と共有する面白さを実感することができる教材である。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ	①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ②「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。 C(1)カ	文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見直しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。

9. 指導と評価の計画（11時間）

	時間	ねらい・学習活動	評価規準（観点） 【評価方法】等 ◎指導に生かす評価 ○記録に残す評価
1	第1時	め ロボットについて知っていることを出し合おう。 ・知っているロボットについて出し合う。 ・範読を聞く。 ・初発の感想を書く。	◎主体 (ノート)
	第2時	め ロボットについての感想を交流し、学習の見通しを持つ。 ・前時に書いた感想を交流する。 ・学習課題を設定する。	◎思判表② (ノート)
2	第3時	め 「ロボット」がどのようなことを説明している文でしょうかを考えよう。 ・文章全体の構成と内容の大体を捉える。	◎思判表② (ワークシート)
	第4時	め どんなロボットが、どんなときに、何をして助けてくれるのか、大事な言葉を見つけよう。 ・荷物を家に届けてくれるロボットの事例を読み、大事な言葉をプリントにまとめる。	○思判表① (ワークシート)
	第5時	め どんなロボットが、どんなときに、何をして助けてくれるのか、大事な言葉を見つけよう。 ・水族館などの施設で案内してくれるロボットの事例を読み、大事な言葉をプリントにまとめる。	○思判表① (ワークシート)
	第6時	め どんなロボットが、どんなときに、何をして助けてくれるのか、大事な言葉を見つけよう。 ・空を飛んで、危ない場所の様子を見に行ってくれるロボットの事例を読み、大事な言葉をプリントにまとめる。	○思判表① (ワークシート)
	第7時	め 三つのロボットの説明を比べて、分かりやすい説明の仕方について考えよう。 ・3つの事例の書き方を比べ、出てくるロボットの順序について話し合う。	◎思判表② (ノート)
	第8時 (本時)	め どんなときに、何を助けてくれるロボットがあればよいと思うのかを、理由も入れて書こう。 ・筆者のメッセージから、どんなロボットがあると良いかと、その理由を考えて書く。	○思判表② (ワークシート)

	第9時	め あったらいいなと思う新しいロボットについて、考えたことを伝え合おう。 ・考えたロボットについて、友だちと伝え合う。	○思判表② (ロイロ、ワークシート)
3	第10時	め 本の中から「あったら助かるな。」と思うロボットを選び、「ロボット説明カード」に書こう。 ・本を使って、選んだロボットを説明するために、大事な言葉を見つけて、「ロボット説明カード」に書く。	○知・技 (ワークシート)
	第11時	め 本の中から選んだロボットを、友だちに説明し、感想を伝え合おう。 ・ロボット説明カードをもとにグループの友だちに説明し、感想を伝え合う。 ・『ロボット』の学習を振り返り、感想を書く。	○主体 (ノート)

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

どんなときに、どんなロボットがあると良いのかと、その理由を考えて書くことができる。【思】C(1)カ

(2) 本時の評価規準

どんなときに、何をして助けてくれるロボットがあれば良いのか考えて書くことができる。【思】C(1)カ

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況(A)	概ね満足できる状況(B)	努力を要する子どもへの支援(C)
どんなときに、どんなロボットがあると良いのかと、その理由を踏まえて相手に伝わるように詳しく書くことができる。	どんなときに、どんなロボットがあると良いのかと、その理由を踏まえて書くことができる。	穴埋め式のワークシートで型を示し、書きやすくする。

(4) 本時の学習過程

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準(観点) 【評価方法】等 ◎指導に生かす評価 ○記録に残す評価
10分	1. 前時までのふり返りをする。 2. 本時のめあてを確認する。	・接続詞などの大切な言葉を振り返る。	
	◎ どんなときに、何を助けてくれるロボットがあればよいと思うのかを、理由も入れて書こう。		

